

1. 科目名 (単位数)	保育児童専門演習 (2単位)	3. 科目番号	SJMP4172
2. 授業担当教員	保育児童学科教員		
4. 授業形態	演習 原則として保育児童学科教員全員が分担して、ゼミ形式の授業を行う。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	<p>保育の専門性を深めるため、自己の課題を見つけ、グループまたは個人でテーマ、学習目的を設定して指導教員のもとで主体的に学習する。</p> <p>保育にかかわる理論的、実践的研究(文献講読、調査、討論等)、実践活動、実技研修をゼミ形式で行う。実技の分野においては、研鑽を積んで実践における得意分野を作る一助とする。方法は、①特定の研究テーマの設定と調査活動の実施、②保育所・幼稚園・福祉施設などにおける実践への参加、保育補助活動を通して実践力を高める、③新しい保育実践法(音楽、造形、体育、児童文化等)の開拓、研究を行う、などが想定される。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2 保育に関する現代的課題について、資料収集、現状分析、検討を行えるようになる。 3 乳幼児の発達、保育実践法等に関する研究テーマ設定、研究法の学習、個人またはグループで研究課題に即した研究活動、研究レポート作成を通して、研究の基礎を習得する。 4 保育に関わる問題解決のための、総合的考察、判断方法等について学び、問題解決をすることができる。 5 これまでの自分の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の確認、定着を図り、応用力を身につける。 		
9. アサシメント (宿題)及びレポート課題	<p>グループによって活動目的、経過が異なるので、担当教員に任される。</p> <p>調査研究結果報告、実践報告、実技習得成果発表等、多様な形式による課題やレポートが課せられる。</p>		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】各担当者によって提示されます。		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2 保育に関する現代的課題について、資料収集、現状分析、検討を行えるようになる。 3 乳幼児の発達、保育実践法等に関する研究テーマ設定、研究法の学習、個人またはグループで研究課題に即した研究活動、研究レポート作成を通して、研究の基礎を習得する。 4 保育に関わる問題解決のための、総合的考察、判断方法等について学び、問題解決をすることができる。 5 これまでの自分の学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能の確認、定着を図り、応用力を身につける。 <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準1～5についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各受講生のゼミナールへの参加意欲・態度について、研究計画の進捗状況、ゼミでの発言等から総合的に評価する。(50%) ・各受講生のゼミナール参加による知識理解や思考の深まり、研究法の習熟、表現力の向上について、ゼミで作成したレポートや実技などから総合的に評価する。(50%) <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>大学生活最後の仕上げの学習として、これまで得た専門的知識や身に付けた実践力をさらに深めましょう。自ら学ぶ気持ちを持って、個性を生かした活動を目指して、研究へも実践へも一歩踏み込む意欲をもって参加して下さい。一人ひとりが大切にされ、生かされる関係を作りながら、教員も学生も一緒に学びたいと考えます。</p>		
13. オフィスアワー	各担当者によって提示されます。		
14. 授業展開及び授業内容			
01	幼児体育関連分野 現場での体育指導の在り方についての調査、観察研究、実践を通しての指導法の学習をする。 人間が心身共に健康であることについて考察する。		
02	造形、表現関連分野 造形活動表現をグループで体験しながら保育現場での活用方法を考え、また、子どもを困むより良い環境の構成についても造形表現の立場から考える。		
03	音楽、表現分野 音楽表現活動をグループで体験しながら、子どもの発達、保育現場での活用について考えていく。創作オペレッタ、ペープサートによる音楽劇、創作手遊び曲集作りなどを行う。		
04	保育理論分野 保育思想、保育制度、海外の保育等に関する文献研究や、現在の保育理論に基づく多様な保育実践法についてフィールドワークを行う。		
05	保育実践分野 保育の「目的」「目標」、「内容」、「方法」、「教材研究」等保育実践に関する具体的学習活動を行う。		
06	児童福祉分野 児童福祉関係機関への訪問、現場職員との交流、社会地域調査等を通して、福祉の実態に関する学習をする。		

07	保育心理分野
<p>幼児、児童の発達を中心とした人間発達の理解と発達に即した保育実践法や保育のあり方等、現場体験を加えて発達と保育の理解を深める。</p>	
08	障害児保育、特別支援分野
<p>障害のある子どもや「気になる子ども」。統合保育のみならず、病院内保育、施設内保育など障害児療育のさまざまな形態に触れながら、実践的なスキルを学習する。</p>	
09	小児保健分野
<p>小児保健、小児保健実習で学んだことの総復習、子どもたちの健康を守り、健全な発育を促す対策（感染症、事故防止、救急看護、咀嚼力向上、歯科保健など）として、保育所、幼稚園、地方自治体などの取り組み等文献研究や実態調査を行う。</p>	
10	保育にかかわる関連分野
<p>幼小連携、学童保育、子育て支援、保育者養成などの諸問題に関する文献研究及び現場での体験的学習</p>	